

平成28年度決算の概要

市民の皆さんが納める税金や国・県からの補助金は、市民生活のためにさまざまな形で使われています。決算は、それらのお金が、皆さんの暮らしやまちづくりにどのように生かされたのかをまとめたものです。今号では平成28年度の決算の概要をお知らせします。

【一般会計】

「一般会計」は、福祉・教育など市民生活全般に関わる基本的な事業を行う会計で、徳島市の会計の中心となるものです。

平成28年度の一般会計決算額は、歳入が953億6545万円、歳出が945億1154万円でした。翌年度へ繰り越す事業に充てる財源を差し引いた「実質収支」は、1億2347万円の黒字で、前年度の実質収支や財政調整基金への積み立てなどを除いた「実質単年度収支」では、18億9689万円の赤字となりました。

また、市の貯金である財政調整基金と減債基金残高は、平成28年度末で62億8934万円と、前年度より7億4485万円減少しています。

歳入

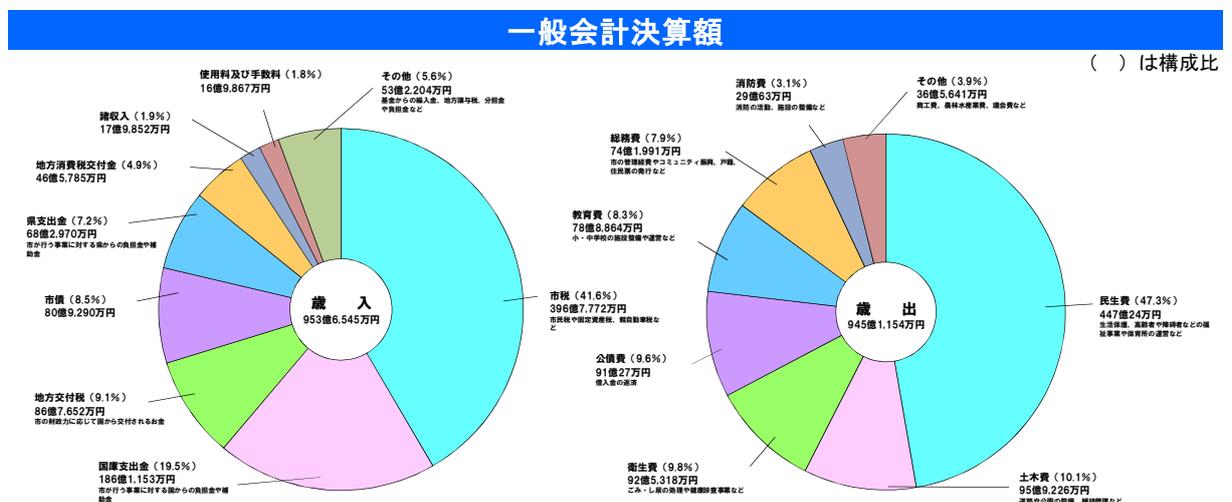
歳入総額は、前年度より29億7435万円減少しました。

その主な要因は、市税が3億6315万円、国庫支出金が3億3637万円増加した一方で、教育債や減収補てん債の減などにより、市債が28億5100万円、地方消費税交付金が5億4815万円減少したことなどによるものです。

歳出

歳出総額は、前年度より21億7382万円減少しました。

その主な要因は、年金生活者等支援臨時福祉給付金給付事業費の増などにより、民生費が13億5791万円増加した一方で、沖洲小学校増改築事業費の減などにより、教育費が18億8118万円、市営住宅耐震改修事業費の減などにより、土木費が6億7056万円、高機能消防指令センター等整備事業費の減などにより、消防費が4億9181万円減少したことなどによるものです。



【特別会計・企業会計】

一般会計とは別に、保険料など特定の収入を財源として特定の事業を行う場合に経理を明確にするため設置している「特別会計」と、法律に基づいて地方公共団体が経営する水道やバス事業などの「企業会計」があります。

特別会計の決算

特別会計全体の歳入総額は643億3271万円、歳出総額は636億1996万円、歳入歳出差引額は7億1275万円の黒字となりました。これは、下水道事業や介護保険事業などの黒字によるものです。

企業会計の決算

総収益は167億4751万円、総費用は158億5989万円、差し引き8億8762万円の黒字となりました。これは、水道事業や病院事業などの黒字によるものです。

表1 一般会計・特別会計決算額

区分		歳入	歳出	歳入歳出差引額
一般会計		953億6,545万円	945億1,154万円	8億5,391万円 (7億3,044万円)
特別会計	国民健康保険事業	302億9,767万円	303億7,395万円	△7,628万円 (3,809万円)
	食肉センター事業	1億1,821万円	1億1,821万円	
	下水道事業	60億1,560万円	58億8,133万円	1億3,427万円 (2,550万円)
	奨学事業	2,747万円	2,209万円	538万円
	土地取得事業	5億4,820万円	5億4,820万円	
	住宅新築資金等貸付事業	1,185万円	1,138万円	47万円
	介護保険事業	238億3,369万円	233億4,442万円	4億8,927万円
	後期高齢者医療事業	34億8,002万円	33億2,038万円	1億5,964万円

※注 歳入歳出差引額欄の()は、翌年度へ繰り越す事業に充てる財源

表2 企業会計決算額

区分	総収益	総費用	純利益(△純損失)
中央卸売市場事業	5億1,233万円	5億371万円	862万円
商業観光施設事業	1億9,408万円	1億6,971万円	2,437万円
水道事業	51億4,406万円	43億5,510万円	7億8,896万円
旅客自動車運送事業	7億427万円	6億8,684万円	1,743万円
市民病院事業	101億9,277万円	101億4,453万円	4,824万円